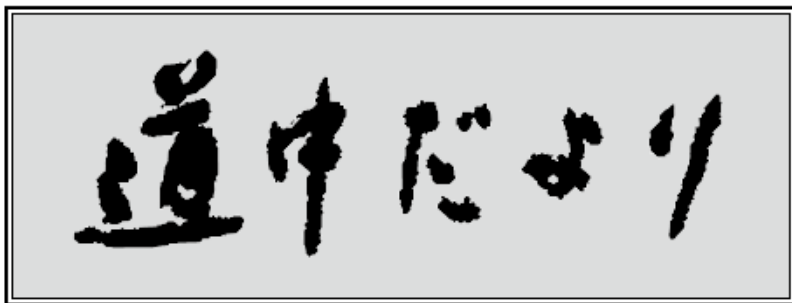




イランカラブテ 北の大地から
新たな学びを紡ぎ その先へ

人材確保 中教審中間まとめ 部活動の在り方について 意見交換

全日中 三田村会長来道
道中 鎌田会長らと懇談

三田村裕 全日本中学校長会会長が来道し、北海道中学校長会五役との意見交換会が10月30日（金）に千歳市立千歳中で行われた。三田村会長からは、中教審「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（中間まとめ）（10月7日）における全日中会長として述べた意見の概要説明が行われた。道中からは各ブロックから寄せられた課題、及び、中教審中間まとめへの意見、部活動の今後の在り方に関するアンケート結果を伝え、全日中としての国や文科省への一層の働き掛けを要望した。



懇談する道中 鎌田会長（左） 全日中 三田村会長（右）

案内で参観し、コロナ対応の様相についての情報交流を行った。その後、給食（黒毛和牛のすき焼き）を試食し北海道の味を楽しんだ。

午後からの意見交換会の概要について紹介する。

1 三田村会長からの情報提供

中教審中間まとめへのヒヤリングにおいて述べた以下の3点の内容について説明が行われた。

- ①個別最適な学び、協働的な学びを実現するための人的物的環境の整備
- ②教職員人材の確保
- ③外部人材の確保

また、教員免許更新制の課題、部活動の在り方についてもそれぞれ中教審、スポーツ庁に対し述べた意見の内容について説明が行われた。

免許更新制については以下の丁寧な説明が行われた。

免許更新時の受講講座の内容が現場の教師にとってより効果のあるものであることが望ましい。また、教育委員会が開催する研修との整合性やそれらを履修単位として認定することについて検討する必要がある。長期休業中においても中学校教員の場合は部活動の大会、面談と多忙であり、そのため本人にとって必要な研修講座よりも日期的に受講可能な講座を選ぶ傾向があるため、更新制の在り方は大きな課題である。

また、部活動の在り方についても以下の丁寧な説明が行われた。

現状、部活動に対する考え方には大きな温度差

今回の意見交換会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった道中研究大会函館大会をはじめ、全国各ブロックの研究大会が全て中止となったことに伴い、三田村会長が各ブロックの校長と実際に会い話を聞く機会がなくなったことへの対応として実施したものである。本道の前に京都市（近畿ブロック）、富山市（東海北陸ブロック）を訪問しており、北海道は3番目の訪問となった。

道中からは鎌田浩志会長（岩見沢市立北村中）、越田公美事務局次長（札幌市立信濃中）、三浦利章事務局次長（千歳市立千歳中）、黒川裕之会計理事（小樽市立松ヶ枝中）、山田誠一情報部幹事（苫小牧市立沼ノ端中）が出席した。

午前会場となった千歳中の授業を三浦校長の



があり、スポーツ庁が示した「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の内容についても数多くの議論を経て形成してきた経緯がある。この検討は今後も継続するものである。そこで示されている「休日の部活動の段階的な地域移行」についても段階的な取組の過程でありゴールではない。更に議論を進め、生徒にとっての望ましい部活動の在り方や、働き方改革に沿った部活動改革のために力を尽くしていきたい。

2 中間期アンケート結果（課題）について

道中から各ブロックを対象に実施したアンケートの内容から課題を抽出し、その背景も含めて説明を行った。

- ①コロナ禍における働き方改革の進捗状況
- ②学習指導要領全面実施への進捗状況
- ③GIGAスクール構想への準備
- ④学習支援員、及び、スクール・サポート・スタッフの人材確保
- ⑤管理職等の人材確保
- ⑥今後の部活動の在り方

三田村会長からは支援員などの人材の確保について「予算はついても人がいない状態」を改善する仕組作りの必要性について説明が行われた。学校が独力で人材確保を行うことはすでに厳しい状況であるため、校長会として教育委員会に窮状を訴え、協力体制を構築し、例えば人材派遣会社と提携することも一つの方法であると説明された。この考え方は中教審中間まとめにおいて「人材の確保や遠隔によるサポートも含めた活用の事例を収集して全国に展開することが必要である」と示されていることが説明された。

3 全日中への質問・提言について

中間期アンケートと同時に聞き取った全日中へ

の質問・提言を集約した結果を伝えた。

- ①少人数学級の実現と教員定数の改善の見通し、及び、全日中としての働き掛け
- ②部活動の今後の在り方とその実現に向けて
- ③教職員の定年延長の見通し
- ④全日中におけるWebを活用した副会長連絡会の今後の見通し
- ⑤通知表を指導要録の代替として取り扱ってよいという答申について

4 文部科学省中教審中間まとめに関するアンケート結果から

道中から中教審中間まとめへの意見を伝えた。

- ①履修主義を踏まえながら修得主義をより鮮明にすること
- ②ICTに関する環境整備、支援員、研修の整備・充実
- ③教員定数の改善
- ④少人数学級の実現
- ⑤教員不足状態の改善
- ⑥学びの充実を支える人的環境の整備
- ⑦いじめ・不登校生徒への対応

5 部活動の今後の在り方について

部活動の在り方に関するアンケートの集約結果を基に今後の方向性と課題についての意見交換を行った。アンケートの結果からは、各校長が地域の実情などから様々な課題を感じており、また、その解決のための方向性において多様な意見があることを中心に伝えた。

鎌田道中会長からは全日中副会長連絡会の継続実施への要望が述べられ、三田村全日中会長からは北海道の校長と直接会って生の声を聞くことができたこと、また、道中がアンケート調査などを実施し各校長の意見を集約したことへの謝意が述べられ終会となった。



北海道中学校長会

発行者 会長 鎌田 浩志

編集者 道中情報部

道中事務局

札幌市中央区北1条西3丁目敷島プラザビル4F

電話 011-251-1344 FAX 011-251-1302

<http://www.dochu-kochokai.jp/>